令和４年度　学校評価結果

「重点目標についての成果と課題及び考察」
～教職員･児童･保護者の三者のアンケート結果より～

［参考資料］

○令和３年度学校評価 教職員アンケート ○令和３年度学校評価 児　童アンケート ○令和３年度学校評価 保護者アンケート	○令和４年度学校評価 教職員アンケート ○令和４年度学校評価 児　童アンケート ○令和４年度学校評価 保護者アンケート

Ⅰ「豊かな人間関係」について

（１）あいさつ運動の推進について

【設問１】

【教】子供たちは自ら進んであいさつをしている。
【児】あなたはまわりの人に進んであいさつをしていますか。
【保】お子さんはあいさつがよくできていると思いますか。

肯定的評価をした児童の割合は９５％と高く，児童一人一人の気持ちの中には，「よくあいさつができている」という認識があるようである。職員も，結果を見ると昨年度より肯定的評価が１８ポイント向上しており，あいさつについて改善が見られると感じている職員が増えてきている。しかし，本校の「スクールプラン」では，あいさつについては達成目標を９０％としているが，職員も保護者も９０％に届いておらず，また，保護者からの記述回答でも，あいさつが不十分であるという指摘があることから，さらに改善が必要だと思われる。「あいさつの意義」や「気持ちよいあいさつの仕方」などあいさつに関する指導を，道徳や学級活動の時間，または全校集会等の機会を有効に活用して，継続して行っていきたいと考える。また，学校運営協議会の会議で委員各位に現状を伝えて協力を要請し，学校と家庭そして地域の三者の教育力をもって気持ちよいあいさつができる子の育成を図りたい。

（２）一人一人の居場所があるあたたかい環境づくりについて

【設問２】

【教】子供たちは思いやりの心や命を大切にする心が育っている。
【児】あなたは友達にやさしく接し，仲良く生活していますか。
【保】お子さんは思いやりの心や命を大切にする心が育っていると思いますか。

この質問項目については，教職員，保護者共に極めて高い達成率となっている。特筆すべきは，教職員，保護者共に否定的評価が０％であるということである。教職員も保護者も，子供たちに「思いやりの心」が育っていることを，子供たちの日々の様子から実感している表れであろう。児童の結果に関しても，昨年度より３ポイントの上昇が見られ，多くの児童が，自身に思いやりの心が育ちつつあることを実感していると考えられる。気になる点といえば，「あまり思わない」と回答した児童が４％いたことである。今後も，道徳の時間を要として，教育活動全般において，力を入れて道徳教育を展開することで，すべての児童が「思いやりの心」の成長を実感できるようにしていきたい。

【設問３】

【教】子供たちは学校や社会の決まりを守っている。（守っていると思いますか）
【児】あなたは，学校や社会の決まりを守っていますか。
【保】お子さんは，学校や社会の決まりを守っていると思いますか。

児童，教職員は，肯定的評価が９５％を超える大変高い達成率である。児童に関しても，昨年度よりは２ポイントほど下がってはいるが，９３％と高い達成率である。遵法精神を涵養する家庭教育，そして学校における道徳教育等の成果に加え，学校外での子供たちの様子に高い関心を寄せ，学校の外で「してはけないこと」を子供たちがしていれば，その場面を捉え注意してくれる地域の教育力があるからこそであると考えられる。

学校での道徳教育の更なる充実に加え，地域との連携をより深めることにより，よい状態にある現状を今後も維持できるようにしていきたい。

【設問４】

【教】子供の悩みや相談を積極的に聞き，いじめの早期発見に努めている。
【児】先生は困ったときに話を聞いてくれますか。
【保】お子さんは先生を信頼していると思いますか。

これは,「子供たちが困っているときに，教職員は頼りになるか。」ということを問われている設問である。この設問に対して，児童，保護者，教職員の三者いずれの結果も９０％を超えており，児童と保護者に関しては，きわめて高い達成率が認められる。それらの数値結果より，現段階では，子供たちの悩みに教職員は十分対応できているということが推察できる。昨年度の結果では,「思わない」と回答した児童が２％あったが，本年度は０になったのも大きな成果といえる。

しかし，若干ではあるが，未だ「否定的評価」の回答もあることは見逃せない事実である。現在，学期ごとに実施している「いじめアンケート」や児童一人一人に対するきめ細かな行動観察等を継続して行うことで，子供の“悩み”や“いじめの芽”を早期に発見し，担任，生徒指導主事，管理職等の関係職員が情報を共有しながら連携して対策を考えることで，適切な対応をしていきたいと考える。

【設問５】

【教】子供たちが読書に親しめるような工夫をしている。
【児】あなたは自分から進んで本を読んでいますか。
【保】お子さんは自分から進んで図書館の本を借りたり本を読んだりしていると思いますか。

教員は，ほぼ全てが“子供たちが読書に親しめるような工夫をしている”という意識があるのに対して，児童や保護者は教員ほどその実感がないのであろうことが数値結果より推察できる。「朝読書」,「夏季・冬季休業前の複数冊の貸し出し」，読書週間における,「うち読」，教職員の「おすすめの一冊」の紹介,「ビブリオバトル」，教職員による「読み聞かせ」等々，子供たちの読書への関心を高めるための取組は様々な形で行っているが，昨年度と本年度の児童及び保護者の数値結果を比較すると，その成果は今一つといったところである。しかし，取組の種類をこれ以上増やしても，取組が多すぎることでその一つ一つの内容が疎かになってしまうことも考えられるので，現在行っている取組の内容を改善・充実させることで，状況の改善を目指したい。中でも,「うち読」は家庭の協力を得やすく,「うち読」に学校と家庭が一体となって取り組むことでより多くの成果が期待できる。新型コロナウイルス感染症対策の一つとして現在実施を見合わせている，地域ボランティアによる「朝の読み聞かせ」であるが，ウイズコロナで日常が戻りつつある現状において，近い将来，その再開が期待できる。「朝の読み聞かせ」が再開されれば，子供たちの読書への関心も高まることが期待できるし，そう願いたい。

また，自治会のご厚意による新しい書籍の寄付も，子供たちが新しい本の世界にふれるよい機会となり，読書意欲の向上を促すための明るい材料である。

Ⅱ　「確かな学力の定着」について

（１）言語活動の充実と基礎・基本の学力の定着について

【設問６】

【教】子供たちが達成感がもてるようなわかる授業・楽しい授業を行っている。
【児】授業はわかりやすく楽しいですか。
【保】お子さんは授業の内容がわかっていると思いますか。

児童の結果が，前年度の比べて８ポイント数字を大きく落としているのに対して，保護者の結果は３ポイント上昇しており，分析が難しい結果となった。(※ちなみに，教職員は，肯定的評価が７９ポイントと若干低めに見えるが，学習指導を担当していない職員は未回答であるため，実質は１００％と読みかえて問題ない。）年度当初に示したスクールプランの中で「分かる授業」「楽しい授業」に関しては，９５％を目標にしており，その視点で考えると，特に今回の児童の回答結果は課題として受け止める必要がある。教員目線で見ると,「甲府スタイル」や「やまなしスタンダード」の実践，教材・教具の工夫，ICT を積極的に導入した授業の展開等々，授業づくりには特に力を入れて取り組んでいるという実感がある。しかし，一割強の児童がその実感を共有できていないということが今回のアンケートで明らかになったので，何らかの改善策を講じる必要がある。具体例としては，校内研究会での授業研究の推進，管理職による授業観察と授業に対する指導・助言，部外の講師を招いての学習会の企画等が考えられる。学習指導は教員の本分であるので，よりよい授業づくりには努力を惜しまず取り組んでいきたい。

【設問７】

【教】子供たちは,「話す・聞く・読む」などの言語の力がついている
【児】自分の思いや考えを話したり文章に書いたりする活動に進んで取り組んでいますか。
【保】お子さんは,「話す・聞く・読む」などの言語の力が前よりもついてきたと思いますか。

この項目も，児童と保護者との認識の乖離が見られ分析が難しいところではあるが，教職員の肯定的評価が７８パーセントと振るわないところからも，改善が求められる項目であろうと考える。本校は，昨年に引き続き，「『話す・聞く・書く・読む』力を育てる工夫に取り組むことにより確かな学力の定着を図る」を主軸において校内研究を進めている。教員各自が，「学び会うための話し方・聞き方」,「考え方の表し方」,「発言の仕方の話型」,「ユニバーサルデザインの考え方を導入したノート指導」などの工夫を，それぞれの学級の特性や学年の発達段階に応じて教育活動に取り入れ授業づくりに取り組んでおり，保護者の９７％という数字は，保護者が客観的な立場からその成果を感じている証左であると考えられる。しかし，肝心の子供たちの２割近くがその成果を実感できていない現実に鑑み，全ての児童が“言語の力”の向上が自覚できるようにしていきたい。そのためには，子供たちが，自分の思いや考えを自信を持って，言語（話す・書く）を用いて表出する機会の設定したり，表出した事柄を子供達同士で肯定的に評価し合う活動を授業の過程に位置づけたりすることが有効であろうと考える。ICT の活用も有効であろう。例えばグーグルミートを使った友達との意見交換などは，人前で発表するのが苦手な児童には効果が期待できる。

（２）一人一人を大切にしたきめ細かな学習指導について

【設問８】

【教】授業中や授業以外の時間に個別指導をしている。
【児】先生は勉強がわからない時には，わかるまでていねいに教えてくれますか。
【保】先生は，お子さんがわかるように丁寧な指導をしてくれていると思いますか。

児童，保護者，教職員の三者共に，達成率が９０％を超える高い達成率となっている。多くの保護者が，教員のきめ細かな学習指導に理解を示し，好意的に受けとめていることが数値から読み取れる。児童は昨年度に比べ，肯定的評価では３ポイントほどポイントを下げているが，内訳を見れば「そう思う」が５ポイント上昇している。また，教員もほぼ全てが肯定的評価をしていることからも，つまずいている子のために，教員は時間をやりくりしながらきめ細かに学習指導を行うことで児童のニーズに対応できているという感触があり，子供たちもそれを実感を伴って受け止めていると考えられる。

児童の１％が「思わない」と回答しているのが気になるところである，引っ込み思案の児童は，自分から「分からない」という意思表示が苦手なので，各担任は，自身が担当するクラスの児童の特性を詳細に把握し，意思表示が苦手な子には教員から進んで声かけをし，分からないことを分からないままにしないように心がけたい。

【設問９】

【教】個々の努力や成果を認め，励まし伸ばそうと努力している。
【児】先生は努力したことを認め，励ましてくれますか。
【保】学校は，お子さんの良いところを認め，伸ばそうとしていると思いますか。

設問８と同様に，児童，保護者，教職員の三者共に，肯定的評価が９０％を超える，高い達成率となっている。教職員が児童に対して，肯定的な評価を心がけていることが数字に表れているのではないかと考えられる。子供たちのやる気を引き出し，自尊感情を涵養するためにも,「褒め言葉」や「励まし言葉」などの肯定的な言葉かけは大変重要なので，これからも心がけていきたい。

【設問１０】

【教】宿題や家庭学習の内容や取り組み方について，適時適切に指導している。
【児】あなたは，宿題や家庭学習を必ずやっていますか。
【保】お子さんは宿題や家庭学習を必ずやっていると思いますか。

教職員と保護者は肯定的評価の割合が９０％を超え，高い達成率を示している。家庭学習は本校の教育の柱の一つでもあり，特に力を入れている教育活動である。４月当初，各家庭に文書をもって家庭学習への協力を要請し，同時に「家庭学習の手引き」を配布して家庭学習の仕方や取り組んでほしい学習内容の啓発を行った。そのような一連の取組の成果が，教職員及び保護者の回答結果に表れていると考えられる。

児童のアンケート結果については，肯定的評価が昨年度に比べて８ポイント下落しており，考察が必要な

課題である。「あなたは，宿題や家庭学習を必ずやっていますか。」という設問に対して１２％の児童が否定的回答しているということは，その子達には，自身の納得がいく家庭学習ができていないという感覚があるのではないかと推察する。対応策としては，学校においては，家庭学習の仕方に迷ったり困ったりしている子に対して，それぞれのニーズに即した指導またはアドバイスを教員が行うようにする。また，各家庭においては，再度「家庭学習の手引き」に目を通し，「家庭学習のさせ方」「時間のめやす」「家庭学習のポイント（保護者へのお願い)」等を確認してもらい，わが子の家庭学習をサポートしてもらうようにする。

学校と家庭とが協力して取り組むことで，児童が成就感を感じられる家庭学習を目指したい。

Ⅲ　「健やかな心と体」について

（１）健康な体づくりについて

【設問１１】

【教】子供たちは，「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的生活習慣が身に付いている。
【児】あなたは，「早寝・早起き・朝ご飯」を守り，健康や食べ物について気をつけて生活していますか。
【保】お子さんは「早寝・早起き・朝ご飯」を守り，健康や食べ物について気をつけて生活していると思いますか。

児童，保護者のいずれも肯定的評価が，９０％若干下回る結果となった。

「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的生活習慣は，各家庭の意識や取り組む姿勢に頼らざるを得ない側面がある。子供たちが健康で充実した学校生活を送るためには，「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的生活習慣は欠くことのできない要素であるので，さらにこの習慣の定着が推進されるよう，今後も各家庭の取組に期待していきたい。学校としては，毎月実施している「健康調べ」や，学期ごとに実施している「生活リズムチャレンジ」を今後も継続して実施し，その結果に基づいて児童に指導・助言を行うことで，基本的生活習慣の質の向上を図りたい。昨年１０月に，日本学校歯科医師会から「全日本学校歯科保健優良校」の表彰を受けた。本校の歯科衛生に関する取組の大きな成果である。

【設問１２】

【教】個々の能力に応じた楽しく達成感のある体育授業をしている。
【児】体育の授業は楽しいですか。。
【保】お子さんは体育を楽しみにしていると思いますか。

児童と保護者の肯定的評価は９０％を超え，高い達成率を示している。新型コロナの感染防止のために体育の内容にも制限があり従来のような十分な体育活動ができない現状において，教員は，子供たちの体力の向上に必要な運動量を確保するために，その発達段階に応じて授業内容や使用する教具を工夫し授業を行っている。そのことが児童や保護者の理解を得るに至り，高い達成率につながっていると考えられる。数こそ少ないが「思わない」と回答した児童，保護者がそれぞれ１％ずついることは看過できない事実である。今後は，今まで以上に楽しく成就感が感じられるような体育授業づくりを心がけていきたい。

【設問１３】

【教】外遊びの奨励を中心に，体力向上のための手立てを講じている。
【児】あなたは，運動することや外に出て遊ぶことが楽しいですか。
【保】お子さんの体力がついてきたと思いますか。

保護者は，肯定的意見が９５％と高い達成率であるが，児童は，一割が否定的意見を回答している。
その理由としては，新型コロナウイルス感染症による活動制限や，夏場における熱中症対策のための外遊び制限などが影響しているのではないかと考えられる。各担任は休み時間の外遊びを奨励し，時間の許す限り外にで出て一緒に遊び，学校全体でも「体力づくり一校一実践（大縄とび大会)」を計画し実施するなど，子供たちに外遊びを促す取組を行っている。今後もそれらの取組の重点化と継続によって，子供たちが校庭に出て体を動かす機会を確保し，体力の向上を図りたい。一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し，子供たちが何の制限もなく思い切り外で遊べる日が来ることを切に願う。

（２）自分の身を守る力の育成について

【設問１４】

【教】防災・防犯訓練を生かして，危機管理意識を高める指導を行っている。
【児】あなたは，地震や火事，こわい人に会ったときにどうしたらよいかわかりますか。
【保】お子さんは，防災・防犯について，いざという時にどのように対応するかわかっていると思いますか。

昨年度まで，新型コロナウイルス感染症対策のために回数を制限していた避難訓練であるが，本年度は，年度当初計画した回数の避難訓練を予定通り実施することができている。教職員は，避難訓練の度に反省点を出し合って議論し，次の避難訓練に生かしている。教職員の達成率が高いのはそのような経緯からであろう。児童・教職員に比べ保護者の肯定的意見が若干低めなのは，それらの取組が，各家庭に十分に伝わっていないからではないかと推察する。学級通信，学校便り，ホームページ等を使って，避難訓練も含めた学校の危機管理に関する取組について積極的に情報を提供することで，保護者の理解も深まるのではないかと考える。「地震災害への備えと対応」の配布と「わが家の防災マップ」作成は，本校独自の取組である。児童，保護者，教職員が共に防災に関する意識を高める大変有効な取組であるので，今後も継続していきたい。

【設問１５】

【教】登下校の安全指導を日常的に行っている。
【児】あなたは，交通ルールを守り，安全に登下校していますか。
【保】お子さんは，登下校の安全に気をつけていると思いますかb。

登下校時の交通安全に関する意識は，三者とも高いことが回答結果より分かる。教職員による日頃からの交通安全指導に加え，１年生対象の「交通安全教室」や３年生対象の「自転車教室」，夏季・冬季休業前の交通安全ビデオの視聴などにより，子供たちは，交通ルールや安全に登下校するために留意すべきことを学んでおり，児童の交通安全への意識が高いのはそのためであろう。また，PTA が主体となって毎日実施している，登校時の「旗振り」も，子供たちを交通事故から守るのに大いに寄与していると考えられる。

学校運営協議会の組織の一つである「学校応援団 安全支援部」による下校時の見守り活動も，子供たちの安全な登下校に寄与していると考えられる。

各小中学校 PTA，甲府市，警察署の三者により実施された「通学路点検」（※本年度は紙面での意見交換）では，市と警察に対して本校の通学路に関する課題についての説明と改善要求を行い，「朝気ふれあい公園」北側の歩道から車道に下りるスロープ幅の拡張が実現した。

今後も，学校，家庭，地域と行政が協力して，児童の登下校の交通事故０を目指したい。

Ⅳ「開かれた学校づくり」について

（１）保護者・地域との連携について

【設問１６】

【教】学校の教育活動を保護者や地域に知らせ，理解を得ている
【保】学校からのホームページから，学校の様子がわかりますか。

保護者，教職員いずれも，肯定的評価が９０％を超え，高い達成率である。「学校便り」，各学年ごとの「学年便り」，HP に加え，保護者を２グループに分けてのリモート参観など，新型コロナ感染症対策を入念に行いながら実施した授業参観及び学級懇談会等により，学校の教育活動や学校での児童の様子について保護者に伝えることができたことが数値に表れていると思われる。実際に，保護者の記述回答の中にも，「ホームページの更新回数が増え学校の様子がよりよくわかり，また他の学年の事（くだり）も知れ学年が上がったらこんな行事があるんだと色々な情報を得る事ができ嬉しく思いました。」という行があり，学校の取組が肯定的に評価されている。本年度も，地域の人たちに学校に来てもらい実際に子供たちの様子を見ていただく機会を作ることができなかったが，地域の人たちには，学校便りと HP を通して教育活動の様子を最低限お伝えできたのではないか。本校には，学校運営協議会という組織があるものの，新型コロナ感染症の影響で実質的な活動はあまりできなかった。しかし，会議を重ねる中で，協議会の機能や委員各自の役割についての理解が深まり，教育活動を支援する準備は整いつつある。新型コロナ終息した後は，学校運営協議会による学校運営及び教育活動に対する強力なバックアップを期待したい。

【設問１７】

【教】保護者等が相談しやすい関係を作っている。
【保】学校に，お子さんのこと，学校のことなどを安心して相談できますか。

この設問に関しては，保護者，教職員ともにきわめて高い達成率である。保護者の多くが教職員，特に担任との間に良好な関係性と信頼感を感じていることがデータから読みとれる。

一点危惧したことは，「思わない」と回答した保護者が４％あったことである。担任以外にも，管理職，特別支援担当教員，養護教諭，スクールカウンセラー等，相談窓口を広く開いて，悩みを持つ保護者に積極的な対応をしていきたい。相談内容によっては，外部の専門機関（こころの発達総合支援センター，県総合教

育センター，適応指導教室等）と連携しその協力を得て，保護者の要望に対して適切に応じられるようにしていきたい。

【設問１８】
【教】学習効果を高めるために地域の人材を積極的に活用している。
【保】学校は，お子さんの学習効果を高めるため，地域の人材を有効に活用していると思いますか。

※この設問については，本年度アンケートを実施せず。

記述回答（保護者より）

【◎⇒好意的意見　△⇒課題・改善要求 】

	記　述　内　容
◎	・子どもが毎日普通に学校に行くことができていてありがたいと思う。 ・ホームページが更新回数が増え，学校の様子がよくわかる。 ・多忙の中，楽しく学ぶことができる場をつくってくれている先生方の努力に感謝。 ・子の学習面での成長を感じる。先生方の指導に感謝。
△	・コロナ対応の見直しを検討してほしい。 ・臨時休校等の際には家庭学習の課題を充実させてほしい。 ・トイレ掃除をする際に感染症対策が十分になされているか心配だ。 ・クロムブックを持ち帰っても遊びに使ってしまうので，持ち帰りはいかがなものか。 ・運動会の服装についてなど，早めに連絡してほしい。 ・登校時，あいさつをしない子が増えていると感じる。

学校関係者評価委員会からの提言

Ⅰ「豊かな人間関係」に関わって

・子ども達は，あいさつがしっかりできていると思う。学校の指導の成果だと思う。
・子ども達には毎日元気に登校してほしい。不登校は見ていてかわいそう。
・過日の大雪の日，善誘館小の卒業生とおぼしき若者が地域の雪かきを積極的にしていた。卒業生と地域住民との豊かな人間関係が形成されていると感じた。

Ⅱ　「確かな学力の定着」に関わって

・ICT等の使用によって自分の思いや考えを自分の言葉で発する機会が少なくなっていることを危惧している。ICT等の機器に頼るとコミュニケーション能力が低下してしまうのではないか。時にはアナログ的なものも必要ではないか。自分の声と言葉で人に伝えることが大切なので，学校には指導の工夫を期待したい。

Ⅲ　「健やかな心と体」に関わって

・新型コロナウイルス感染症に関して，対策を緩めると感染が拡大し，対策を強化すると感染状況が落ち着く，ということの繰り返しである。第９波が訪れる懸念もある。巷では，感染対策の緩和が進んでいるが，学校では気を緩めず感染対策をしっかりと続けてほしい。
・【設問１４】で，保護者の肯定的評価が伸び悩み，そのことが課題としてあげられていた。しかしそれは，保護者が「未熟な子ども達を災害から守らなければならない。」といった危機感の表れであろう。そう考えると，今回のアンケート結果（保護者　８７％）は，あながちマイナス要素というわけではないと思う。
・見守り隊（学校応援団 安全支援部）への子ども達からの“感謝のメッセージ（カード）”はとても心がこもっており，励みになった。
・学校付近の電柱に，荒川が決壊したときの水位を示す赤いライン（「想定浸水深」）が記されている。学校でも水害に対する意識を高めていく必要があるのではないか。
・『早ね・早起き・朝ご飯』は，防災の面からも，または体力の向上という面からも重要である。

Ⅳ「開かれた学校づくり」に関わって

・安全支援部（見守り隊）の活動を広く知ってもらうためにも，令和５年度「交通安全功労団体表彰」の申請を出したいと考えている。

＊児童・保護者の皆様，アンケートへの御協力ありがとうございました。児童・保護者の皆様より頂戴した御意見・御要望，そして学校関係者評価委員会からの提言のそれら全てを真摯に受け止め，学校運営の改善に生かしていきたいと思います。これからも，本校の教育活動の向上のため，御支援と御協力をよろしくお願いいたします。